

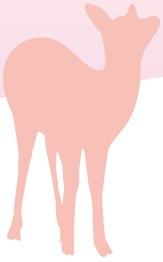


まほろばだより

2013
Spring
vol.04

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第4号



Contents

- ① 講演会「皆でつくろう! 素敵な大学 ~大阪府立大学の実践例~」を開催しました
- ② 第2回奈良県立医科大学 女性研究者 学術研究奨励賞 表彰式・受賞者講演を行いました
- ③ 医学部3年生を対象に医師のキャリアデザインのためのワークショップを実施しました
- ④ 相談窓口紹介カードを作成しました
- ⑤ 研究支援員情報交換会を実施しました
- ⑥ ハラスメント防止研修会を開催しました
- ⑦ 女性研究者支援センターの達成目標
- ⑧ コミュニケーションスキルを磨こう 第4回 『アルコール・ハラスメントとは』

>> Report 1

講演会「皆でつくろう! 素敵な大学」を開催しました



これまで、ハラスメント関連の講演会が中心でしたが、今回は大学における女性研究者支援全般について、大阪府立大学女性研究者支援センター長である田間泰子先生にご講演をいただきました。

大阪府立大学は、平成22年度に公立の総合大学として初めて女性研究者モデル育成事業に採択されました。今回は『皆でつくろう! 素敵な大学』～大阪府立大学の実践例～というテーマで、これまでの様々な取り組みについて、苦労話も交えながら楽しくお話ししていただきました。意識改革の難しさ、失敗・反対されても諦めない姿勢、周囲との連携の大切さなど大変共感でき、ためになる内容でした。



田間先生の「大学が大切にすべきは人であり、予算も人のために使い、活かされる」「女性が働きやすい環境とは、皆が働きやすい環境である」という言葉はとても印象的でした。

これまでとは少し違ったテーマの研修講演会でしたが、参加者にとって貴重なお話を伺うことができ、本当に有意義な時間となりました。

>> Report 2

第2回奈良県立医科大学 女性研究者学術研究奨励賞 表彰式・受賞者講演を行いました



本学では『女性研究者学術研究奨励賞』を設置しております。この奨励賞の目的は、研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することにあります。今回は2月6日に選考委員会が開催され、神経内科学講座 降矢芳子講師が選考されました。それに伴い2月20日、厳樞会館にて「第2回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞授賞式」を執り行いました。授賞式ではまず、喜多センター長から講評・賞状等の授与が行われ、その後降矢講師が「Alzheimer病におけるメタボリックシンドロームとrenin-angiotensin阻害薬の影響」という演題で、ご講演されました。

Report 3 医師のキャリアデザインのためのワークショップを開催しました

12月6日、医学科3年生を対象に医師のキャリアデザインのためのワークショップを行いました。今回は奈良県医師会にご協力いただき、橿原市にある奈良県医師会館にて開催しました。

まず、奈良県医師会 塩見俊次会長に開会のご挨拶をいただき、前半は地域医療を支える先輩医師のキャリア構築について奈良医大出身の吉村佳子先生（済生会中和病院 副院長）と橋本俊雄先生（奈良県立三室病院 院長）にご講演をいただきました。先生方にはこれまでのキャリアについて、またキャリア構築の上で励みになったことや障害になったことなど、ご自身の経験談をふまえたお話しをしていただきました。



済生会中和病院 副院長 吉村佳子先生

奈良県立三室病院 院長 橋本俊雄先生

後半は『どういう医師になりたいか』をテーマにグループワークを行いました。当センターコーディネーターの須崎康恵先生が司会進行を務められ、1グループ男女混合の11人で、10班に分かれてディスカッションを行いました。また、奈良県医師会、奈良医大の先生方にも各班にファシリテーターとしてご参加いただきました。グループワークでは「理想の医師像」、「理想を実現するためには何が必要か（自分がすべきこと、大学や社会に求めること）」について各班で意見を出し合い、ディスカッションを行って模造紙にまとめ、最後に各班の代表者が発表を行いました。

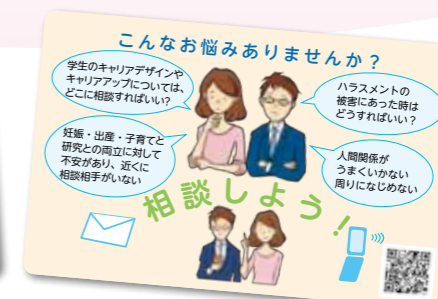
理想の医師像については**患者さんに信頼される、地域貢献、優れた技術、家庭と仕事の両立、研究、自身の健康**といったキーワードが挙げられました。そのために自分がすべきことには**コミュニケーション能力の向上、勉強、積極性、豊富な経験、内面を磨く**といった意見がみられました。また、大学や社会に求めることは、**カリキュラムの改善、よりよい学習環境、医療体制の見直し、女性の働きやすい環境づくり、勤務体系の充実**などが挙げられました。

一生懸命に取り組む学生さんの姿を見て、先生方からは失敗することも悩むこともあるかと思うが、これから理想とする医師に向かって頑張ってもらいたいと今後の活躍に期待する声が上がりました。



Report 4 相談窓口紹介カードを作成しました

ハラスメント被害にあっている、職場にうまく馴染めない、研究とライフイベントの両立について相談したい等さまざまな悩みをお持ちの方へ、相談窓口の周知を図ることを目的とした名刺サイズの啓発カードを作成しました。カードは病院、図書館、学内学生ホールに設置しています。名刺サイズのポケットカードですので、名札ケースの中に入れる等して携帯し、ご活用ください。



Report 5 研究支援員情報交換会を開催しました

今回は、昨年10月に参加できなかった方や新しく支援員になられた方も参加していただきました。みなさん分野は違っても、お互いの業務内容に興味津々で活発な意見交換・交流をされていました。特に生物学教室で支援員をされている方の日々のクラゲへの餌やりの業務のお話しでは、クラゲのイラストまで飛び出し大盛り上がりでした。支援員の数も徐々に増えてきていますので、今後もこういった情報交換の実施を計画していきたいと思っております。



Report 6 ハラスメント防止研修会を実施しました

平成25年1月21日、2月6日に昨年12月に引き続き、学内教職員向けのハラスメント防止研修会を開催しました。本センター御興久美子マネージャーが「大学におけるハラスメントの実態とその発生防止」と題した講演を行い、実際に全国各地で起こった事例を基に、こういった行為がハラスメントになるのかについて解説しました。

ハラスメントをなくすために私たちそれぞれがなすべきことについても触れ、風通しの良い環境を作ることが最も重要であると説明しました。前回とはまた少し違った内容で、実施時間帯も変更し行ったのでさまざまな職員の方にご参加いただくことができました。



時間に余裕のない方はDVD視聴(約23分)による受講も可能です。貸出を希望される方はセンターまでご連絡ください。

Report 7 女性研究者支援センターの達成目標

近年全国的にポジティブアクションの推進が図られ、文部科学省第4期科学技術基本計画の中にも女性研究者の採用割合を、医学・歯学・薬学合わせて30%の達成を目指すとして記されています。本センターでは以下の通り新規参入女性研究者の増加支援の目標を示しています。

平成25年度内に、医学部女性教員比率を

18% (平成22年度) ▶ 21%

医学部全体の女性研究者比率を

23% (平成22年度) ▶ 26%

目標達成のためにはポジティブアクションが必要とされています。
国際的競争力を高めるためにも是非ご協力をお願いします。

※ポジティブアクションとは…
社会での女性の能力発揮を促進するための積極的な取組のこと。(例えば、教員や研究者の採用時、業績・評価が同等である場合には女性を優先的に採用する等)

ハラスメントを未然に防ぐためのコミュニケーションスキルについて毎号ご紹介していきます。

第4回 『アルコール・ハラスメントとは』

これからの季節、歓送迎会やお花見などの場でお酒を飲む機会が増えることと思います。楽しい場だからこそ正しい飲み方でお酒と付き合いたいですよね。あなたの普段のお酒の飲み方はいかがですか？これを機会に一度、振り返ってみましょう。今回はアルコール・ハラスメントとは何かについて解説します。

アルコール・ハラスメント（アルハラ）

= 飲酒の強要、飲酒にまつわる人権侵害

特定非営利活動法人ASK（アルコール薬物問題全国市民協会）によると、アルハラを次の5項目と定義しています。



飲酒の強要

上下関係・部の伝統・集団によるはやしたて・罰ゲームなどといった形で心理的な圧力をかけ、飲まざるをえない状況に追い込むことです。



イッキ飲ませ

場を盛り上げるために、イッキ飲みや早飲み競争などをさせることです。「イッキ飲み」とは一息で飲み干すことで、早飲みも「イッキ」と同じです。



意図的な酔いつぶし

酔いつぶすことを意図して、飲み会を行うことで、障害行為にもあたります。ひどいケースでは吐くための袋やバケツ、「つぶれ部屋」を用意していることもあります。



飲めない人への配慮を欠くこと

本人の体質や意向を無視して飲酒をすすめる、宴会に酒類以外の飲み物を用意しない、飲めないことをからかったり侮辱する、などです。



酔ったうえでの迷惑行為

酔ってからむこと、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ、その他のひんしゆく行為です。

お酒の席でのマナーを守りましょう



イッキ飲みはしない、させない



「私の酒が飲めないのか」なんて言っていませんか？

上記のような飲酒の強要は急性アルコール中毒の原因となり、場合によっては生命に関わる事故になりかねません。お酒の席でのマナーを守り、周囲の人に配慮した適切な飲み方を心がけましょう。

【編集後記】

先日、本センター主催ハラスメント防止研修会に滋賀医科大学の方々に来て下さいました。当日滋賀は雪が降っていたようですが、寒い中来ていただき日頃の活動状況など情報交換ができ本当に良かったです。また、3月には本センタースタッフが滋賀医大の講演会「イクメン・介男子になろう!」に出席し有意義な時間を過ごさせていただきました。今後も他大学との交流により新たな活動の幅を広げていきたいと改めて感じました。

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学校舎5階
TEL：0744-23-8011(直通)0744-22-3051(代)内線：2525
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

